『評価からはじめるまちづくり！2009』（第1グループ）

施策名	健やかに暮らせる健康づくりの推進		
対　象	市民	成果指標	①　死亡原因における3大生活習慣病が占める割合 ②　アンケート調査「自分が健康であると思う」と答えた市民の割合
意　図	健康が維持される		
参加者	村井　研二，中村　渚，青澤　希，安野　賢悟，浅沼　文彦		

グループワークⅠ

理由など		市民の評価
健康の原点は健康な肉体づくり。スポーツの一層の普及に取り組むべき／地域対抗のレクリエーション／スポーツ団体等と協働で健康教育推進	「楽しみながら健康づくり」の視点が弱い　2	2
身の回りに心の健康を崩している方が少なくない／精神保健福祉への取組みが行われていることを知らなかった　もっとPRをするべき	「心の健康づくり」あまり知られていない　2	
「待ち」の姿勢なのではないか？／出張相談所／「イオン」等、人が集まる場所で「心の健康づくり相談室」開設　当日は来なくても、PR効果大	「相談」受身である　1	**市の評価** 4
健診の日程／健診のお知らせはもらっているが、受診していない人が多いのでは／「メタボ健診」は本当に有効なのか？	「健診」お知らせ方法、日程課題多い　3	

グループワークⅡ

効果	成果指標及び課題

現指標の問題点

- 現指標①では、3大生活病以外の死因が増えること。3大生活習慣病の割合が小さくなってしまう。
- 3大死因の増加
↓
長寿命化
「何歳で死亡したか」が大事なのでは
- 老衰で亡くなった人の割合
- アンケート調査の「健康」の定義不明確

健診

- 「健康診査」市民1万人当りの3大生活習慣病による死亡者数
- 「健康診査」受診者総数に対する「健康」者数の割合
- 「健康診査」市民1万人当りの受診者
- 「健診」で病気を発見できた率⇔できなかった率

地域力

- アンケート調査「隣近所に相談をできる相手がいるか」
- 健康づくりのために地域が主体となって実施している事業数
- 地域の課題は地域で解決しよう

メンタルヘルス

- 「心の健康づくり相談」の解説回数や開設地域相談者数
- 「心の健康」市民1万人当りの自殺死亡者数
- 健康な身体作りをしたいと思うか？
↓
実際に行っているか　アンケート調査
- 「心の相談」市民1万人当りの相談者数（認知度を把握）

健康相談

- 「健康相談」市民1万人当りの相談者数（認知度を把握）
- 講演会や教室の参加者数　それが役立ったと思った人の割合
- 相談者のうち「相談して前より健康になった」と感じた人の率（アンケート）
- 健康相談で「参考になった」と思った市民の割合
- アンケート調査　健康づくりに関する相談先を知っている割合
↓
認知度

『評価からはじめるまちづくり！2009』（第2グループ）

施策名	生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実施		
対　象	市民	成果指標	①　市民アンケート「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合
意　図	だれもが生涯を通して気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる		
参加者	戸舘　弘幸，遠山　恵理，菅原　麻子，畑澤　巧，鈴木　恵梨		

グループワークⅠ

理由など

参加しずらい
- 高齢者がレクリエーションを楽しむ場があるのか
- 初心者でも取り組みやすい雰囲気や環境のスポーツ教室であってほしい
- スポーツ施設が気軽に使えるところが少ない
- やや競技に偏っているのではないか
- 気軽に入れるスポーツクラブが少ない（知られていない）
- スポーツ参加：受動的な人への呼びかけが少ない

情報不足
- スポーツ教室や行事の情報を知らない
- どのようなスポーツイベント（教室）が行われているのかわからない
- スポーツ施設の利用可能状況が分からない
- スポーツする機会がない（きっかけがない）

新しいスポーツの提案

施設への不満
- 施設の利用料金がもっと安くなれば積極的に利用する人が増えると思う
- 公園施設をもっと使えるようにしてはどうか
- 市のスポーツ施設が一般的に利用できるものであるか

施設への交通手段が限られる

対極

資源はある
- 変わったスポーツができる（ロッククライミング等）
- 多様なスポーツ施設がある
- いろんなスポーツ行事を開催している
- アマ団体が各種ある
- 他に比べて指導者がいる（アマ）
- 全国的大会の開催でスポーツ意識が高まる
- 県内のスポーツ大会が開かれることが多い

きっかけ作り
- プロの大会が開催されることが少ない
- スポーツを楽しいと思える教育がなかった
- 子供のころにスポーツの楽しさを感じられる環境機会がもっとあればよいのではないか
- 有名なスポーツ選手が県内にいない（プロ・アマ）

アマ団体の運営者の負担が大きいサポートできないか

市民の評価

2

市の評価

2

グループワークⅡ

効果	成果指標及び課題

スポーツへの興味
- スポーツをしたいと考えて
- スポーツ観戦をしているか（テレビ・
- 今、熱中しているスポーツ（種目）がある！と答えた人の割
- スポーツが好きか（見る・する・支え
- （アンケート）体を動かす楽しみを持っていると答えた市民の割合
- （アンケート）生涯を通して楽しめるスポーツ，レクリエーションをもっていると答えた市民の
- （アンケート）過去一年間全くスポーツ，レクリエーションをしなかった月があると答えた市民の割
- 利用できる体育施設をどれくらい知っていいるか
- レクリエーションに参加したことがあると答えた人の割合

運動不足だと答えた人の割合

日常生活
- 歩いて又は自転車を利用して外出する機会があるか
- 日常で歩く（走る）距離
- 消費カロリー

楽しみ方を広げる

子ども
- 中学校で運動部に入っている生徒の割
- スポーツ団体に登録している児童の
- スポーツが好きだと答える奨学生の割

団体人数
- スポーツサークルの数や会員数（アマ団
- スポーツ団体に登録している市民の数（全市
- スポーツ団体，レク団体に新規加入した人
- 平日に運動公園でジョギングorウォーキングしている人の数（平均）
- スポーツ団体+レク団体×人数
- 体育大会・運動会の参加者
- スポーツクラブ，スポーツ施設の利用人

売上
- スポーツクラブ、施設の
- スポーツ用品店の売
- スポーツドリンクの売上

レク重視
- カラオケを追
- 体を動かすゲーム

不定期
- 冬季のみスポーツをしている

病気系
- 職質をうける人の
- 病気の人の数
- メタボ人

『評価からはじめるまちづくり！2009』（第3グループ）

施策名	活力ある農林業の振興		
対　象	農業者，林業者	成果指標	①　生産農業所得 ②　林業純生産額 ③　販売農業従事者数
意　図	安定した生産所得が得られる		
参加者	堀内　照幸，池田　享司，砂川　菜摘，横手　浩徳，外舘　隆志		

グループワークⅠ

理由など	市民の評価
	2.5
	市の評価
	2

担い手

- ②3K
  - ・きつい
  - ・きたない
  - ・かっこわるい
- 家族経営の問題点
  給料体系がちゃんと出来ていない。
  女性労働者の負担（家事労働等）が大きい。
- ③労働時間が長い
- 所得が低い。
- ①後継者不足

生産基盤

- 農地の有効利
- 山間部では，農地が小さく，また傾斜もあるので作業効率が悪い。
- 都市部が近いため，兼業農家が多く，農地が分散している。

販売戦略

- ①農産物
  ブランド化後のPR不足
- 生産だけではだめ。販売まで。（流通への関与）
- ②地産地消
- 食料の「安心・安全」の確保

環境

- 自然との共存
- 環境に対する貢献度が他の産業より高い。（温暖化の抑制，CO2の吸収など）

外的要因

- 燃料等のコストや価格の変動に影響される。
- 天候による農産物の収穫量や海外からの輸入により販売価格が変動しやすい。

食育

- グリーンツーリズムの活動の定着化
- 次世代施策
  - ・農育・環境
  - （小さな頃からの教育が重要）

グループワークⅡ

効果	成果指標及び課題

一押し！

- 農家を続けたいと思う人数
- グリーンツーリズムの体験者の満足度を調べる

担い手

- 労働時間内の仕事内容と量の把握
- 3Kへのイメージふっしょく
  3K→達成感
- ・新たに農業を始めた人数
- ・生産者の所得
  担い手⇔兼業農家
- ・世帯あたりの農業所
- ・販売農業従事者数の雇用形態の把握
- 農業機器の状況把握
- ・新規参入者数
- ・所得の時給換算
- ・企業参入
- ・アルバイトを含まない販売農業従事者
- 労働時間を調査
- 跡継がいる農家
- ・市の施策施行以降と以前の所得生産額の比較

生産基盤

- 傾斜地を利用した産業
- 農地の集約化，転用
- 休耕地の面
- 世帯あたりの農地面積

販売戦略

- アンケートをとるなどしてブランド化されている農産物の認知度を調べる
- 地元農産物の取扱率，売場面積
- 生産物の地元への出荷
- ブランド発信ツールの工夫
  - ・インターネット
  - ・メルマが　etc・・
- 流通経路把握（プロデュースアドバイス？）
- 独自の販売ルートを持っている農家数
- アンテナショップ利用者，納入者

外的要因

- 生産者希望販売価格と実際の販売価

環境

- 森林植樹⇔環
- CO2の吸収率
- 副作用の再利用
  - ・ふん尿
  - ・食べ残し
- 農薬の使用率やエネルギーの使用率（エコ率？）

食育

- 都市との交流
  人，物流
- グリーンツーリズムを修学旅行にプログラム化（誘致）学校
- グリーンツーリズムの新しく参加した人とリピーターの数を調査
- ・教育
  ・環境
  ・健康
  との共生 } 分野
- グリーンツーリズム参加している農家数
- 農業体験研修，学習
- 農業体験を生徒にさせている学校

『評価からはじめるまちづくり！2009』（第4グループ）

施策名	にぎわいのある市街地の形成		
対　象	既存市街地，西口･盛南，その他区画整理地区	成果指標	①　土地区画整理事業施行地区内人口 ②　商業地域面積利用率（利用済商業地域面積/商業地域面積） ③　既存市街地に整備された拠点施設数（累計）
意　図	都市基盤と拠点機能が整備され、人がにぎわう		
参加者	関口　一昭，金沢　幸範，苅間澤　優香子，八重樫　依里，佐藤　聡		

グループワークⅠ

理由など

まだ頑張っている大通り
- 大通りの空き店舗
- 菜園や大通りの空き店舗が増加
- まちの中心（大通り･内丸）は車で歩けない
今の生活スタイルに合わない

市街地に住む人の減少
- これ以上人口は増えないのに区画整理をまだやるのか？
- 人口減少する中で盛南に人が集まるだろうか？

もりおからしさを生かした市街地づくり
- 中津川沿い盛岡城跡公園等の旧市街地は盛岡らしさがでていて良い
しかし中津川沿いの旧市街地をもっと盛岡らしく歴史をかもしだす市街地を整備するとよい。
- 地域ごとに特徴を出した，市街地整備
- 中区域の範囲での市街地拠点整備の検討
- 鉈屋町のように古い街並みを残そうといううごきがみられる
- コンパクトシティの考えの導入を検討してはどうか

市民の評価：4

地域によって異なる市街地の様子
- 加賀野や住吉のような住宅地にまでマンションが建設されている
- 旧　住宅地の松園地区の人口減少が深刻
- 青山駅付近の道路が狭い
- 青山の道路、不十分
- 市の中に生活の拠点ちな場所がきちんと整備されている（大通り,肴町,青山）
- 盛南地区は同じような店舗が多い
- 盛南は思ったほど人が歩いていない
- 10年前と比べると駅西口は整備されよくなってきている
- 都南は細い道が多い
- 都南のサティの跡地はどうなるの

市の評価：3

グループワークⅡ

効果 ／ 成果指標及び課題

第三者の視点
- 観光客からの何らかの評価を（盛岡らしさ）できないか

にぎわい満足度
- 住民アンケートによるにぎわい満足度調査

にぎわい度
- にぎわい度のような指標を作ってみたらどうか

日にち別人口時間帯別
- 商業施設に昼夜問わず人が来ればいい
- 中心市街地の人口の数（人口の集約）
- 大通りの歩行者数（昼と夜でどう違う
- 既成市街地に昼間いる人の数
- 大通り商店街の歩行者数（平日･休日･祝

地域らしさを生かしたまちづくり
- まち屋の保存
- 年代別利用
- 利用者の満足
- 景観に配慮したまちづくりができればよい
- 鉈屋町のように古い街並みを残そうとする活動実践数
- 地域の人々の心がふれあう街づくり（協働作業）
- 店の時間帯別，曜日･時期別の売上
- イベントに関わっている人の数（リーダー等）
イメージは東京近郊の街の最近のにぎわい

車以外の交通手段の利用率
- 市街地を通る公共交通機関の稼働率（乗
- 交通手
- 各地域の拠点施設への移動時間，
- 自転車の交通

空き店舗空き住宅の数
- 既存市街地の空き家
- 空き店舗数の推
- 新しいマンションに人がどれくらい入ってい
- 新規出店率等の動きを数値化してはどうか

公共交通機関の整備度
- マイカーを使用しなくてすむ公共交通網の
- 交通渋滞の緩
- 市街地の（無料）駐車場の整備

- 市･県で整備した拠点施設の利用者数
- 観光客が満足する街づくり
- 既成市街地の再整
- 土地区画整備事業の進捗
- 盛岡の「食」をＰＲする施設の整備（利用
- にぎわいのある市街地には交通環境が重
- 一律の指標では評価できないのではな
- 現在の成果指標には一般市民にわかり

『評価からはじめるまちづくり！2009』（第5グループ）

施策名	より便利な行政サービスの構築		
対　象	市民	成果指標	①　アンケート調査「窓口サービスの接遇が気持ちよく、待ち時間も適切である」（接遇・応対）と答えた市民の割合 ②　アンケート調査「窓口サービスが利用しやすく便利である」（制度や仕組み）と答えた市民の割合
意　図	快適に相談や手続きが受けられる		
参加者	武藤　喜治，若菜　千穂（25日欠席），小松　良太，大崎　真士		

グループワークⅠ

理由など	市民の評価
案内方法　2.5 ・担当課がわかりづらい② ・担当課の名前と性格に知らないとどこに行けばいいか迷ってしまう③ ・正面玄関にしか受付の職員がいないので、気軽に相談しづらい② ・他の部署への案内③ **接遇　3.8** ・職員の対応⑤ ・接遇が昔に比べて丁寧④ ・説明が丁寧④ ・窓口の空気②（話しかけないで，という雰囲気の職員がいる） ・説明がわかりやすい④	3
窓口の利便性　2 ・住民窓口3月，4月の待ち時間が長い② ・来庁者のワンストップサービスが不足② **ハード面　1.75** ・部屋・スペース②（狭い，活用のしかた） ・議会の傍聴席のアクセスが分かりづらい。バリアフリーもしてほしい① ・国民健康保険の窓口がせまい。いつも混み合っている。① ・エレベーターの待ち時間が長い③ **電子　2** ・電子申請・届出の認識②（知らなかった。周知が十分か。） **平均　2.41**	**市の評価** 2

グループワークⅡ

効果	成果指標及び課題
	感情指数 ・心地よさ・安心感（相談しやすい雰囲気）（アンケート） ・お礼件数が増えている ・相談して"助かった"と思う人の数 ・毎日カウント（カウンターにボタンを用意して，対応の良し悪しについて来庁者の意見をカウントする） ・対応の良し悪しについて，来庁者が赤と白のボールを入れる 　赤・・・良かった 　白・・・いまいち ・窓口対抗！ 　評価Week♡ 　評価の"見える化" **回数** ・（窓口で他の窓口に）まわされた回数（窓口アンケート） ・市役所で迷った人の数（窓口アンケート） ・目的課に辿り着くまでの移動数（中継数） ・苦情件数がゼロ（の日数をカウントする） ・自己申告（窓口アンケート） **時間** ・待たされ時間（ストップウォッチでカウントする） ・待ち時間 ・市民一人に対するサービス時間（発行関係と相談は別々） ・窓口毎にお客さんの平均滞在時間数を出してみる（短い方がいい） **電子** ・電子申請・届出利用数 ・電子申請の件数 ・電子申請件数 ・電子申請・届出認識度（アンケート） ・申請した人の感想（アンケート） ・申請様式の改善（書式野煩雑さ解消） ・市のホームページのアクセス数